

(様式5)

調査報告書

訪問調査日	2007年 11月 27日
調査実施の時間	開始 10時 00分 ~ 終了 15時 30分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム たからべ (鹿児島県)
-------------------	--------------------------

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

評価調査員の氏名	氏名 <u>石松 成子</u>
	氏名 <u>竹下 公子</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者</u>
	氏名 <u>中原 博友</u> ヒアリングを行った職員数 2 名

※記入方法

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

※項目番号について

- 外部評価項目は30項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年11月30日

【評価実施概要】

事業所番号	4676500087		
法人名	医療法人 たからべ会		
事業所名	グループホーム たからべ		
所在地	鹿児島県曾於市財部町下財部1318番地9 (電話) 0986-72-1677		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成19年11月27日	評価確定日	平成19年12月28日

【情報提供票より】(平成19年10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・○平成 16年 12月 20日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8人, 非常勤 0人, 常勤換算 8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	有 (円) ○無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要 (10月 1日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	1	要介護2	4		
要介護3	2	要介護4	2		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 83.8歳	最低	74歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	りゅうえいクリニック・財部記念病院・宅間歯科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

職員のチームワークがよく、入居者と職員の馴染みの関係が築かれており、入居者は落ち着いた様子で、住みなれた地域で、「和」を大切にし、ゆとりある生活が送られている。母体法人の病院と、医療連携体制が確立しており、定期的な受診や健康管理・救急時の対応がすみやかになされることから、入居者・家族も安心している。季節の花見や行事など入居者の状況に十分配慮して計画し、地域の中でその人らしく生活することを支えるサービスをしている。今後、益々充実が期待されているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 理念はパンフレットに明記し、権利・義務については契約書に明記し、入居時に説明を行っている。家族に毎月お便りとして入居者の様子やホームでの行事等報告しており改善に取り組んでいる。地域の人たちとの交流は引き続き改善していくことが望まれる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価については職員で話し合い、全員で取り組みケアの評価や見直しを行い、サービスの質の向上に努めている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議に利用者家族や民生委員・市担当者に参加を呼びかけサービスの実際やホームの状況を報告し、話し合いや意見をもらうように努めている。市担当者との連携は、管理者が地域の介護サービスのリーダーとして定期的に情報交換を行い、ともにサービスの質向上に取り組んでいる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族へのお便りを毎月利用料送付時に同封し、入居者の様子やホームの行事など写真を載せて報告している。苦情・相談窓口を説明文書に明記し、面会時にも家族の意見や不満等聞くように努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 住宅地にあり、挨拶や会話を交わし、近くで火災があった時は声掛けがなされるなど、少しずつ地域住民との交流もできている。自治会に未加入であるなど、地域の一員としての日常的な交流活動が少ない。

2. 評価結果（詳細）

主任調査員 石松成子 / 同行調査員 竹下公子

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者を「生活の主人公」としてその人らしい生活を支えるサービスの理念を開設時から、実践している。地域密着型サービスとしての理念は、まだ取り込めていない。	○	地域密着型サービスの役割を反映した理念とするため、職員全員で話し合い、見直すことが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	開設時に全員で話し合い決めた理念であり、玄関や事務所に見やすく掲示し、理念に添ったケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	住宅地にあり、挨拶や会話を交わし、近くで火災があったときに声掛けがなされる等、少しずつ地域住民との交流もできている。		自治会等に参加し、地域の一員として地域の活動や地域住民との交流に積極的に取り組んで行くことが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価について職員で話し合い、全員で取り組み、ケアの評価や見直し等を行い、サービスの質の向上に活かそうと努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に利用者家族や民生委員・市担当者に参加を呼びかけサービスの実際やホームの状況を報告し、話し合いや意見をもらうように努めている。		

グループホームたからべ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、介護支援専門員として会の役員をする等、地域の福祉サービスのリーダーとして、市と連携をとり定期的に情報交換を行い、ともにサービスの質向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料送付時に入居者の様子や行事の写真などを載せて、分かりやすく書いたお便りを、毎月収支報告書も合わせて同封している。健康状態については、面会時に報告し、変化がある場合は随時電話等で連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	説明文書に苦情・相談窓口を明記し、面会時にも家族の意見や不満等を聞くよう努めている。		利用者や家族等が、意見・不満・苦情を安心して表せる機会を積極的に作ることが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	代表者や管理者は利用者や家族との信頼関係を築くためには、馴染みの職員が対応することが重要と認識しており、全職員を常勤採用し離職を最小限に抑え、やむを得ない場合は引継ぎなどスムーズにできるように対応している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員育成の重要性を認識しているが、職員に応じた計画的な研修計画が作成されていない。	○	経験や習熟度の段階に応じた研修計画の作成をして、サービスの質への向上が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は介護支援専門員の役員として、地域福祉のリーダーとして活動し、同業者と情報交換や交流を行って、職員のレベルアップを図っている。		

グループホームたからべ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居申し込みがあれば、ホームの見学を勧めたり自宅や病院を訪問し面談を行い、馴染みの関係を作り安心感をもってもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者のパートナーとして利用者と接しており、利用者から歴史や文化・ことわざなど学び、出来る事はしてもらい、感謝の気持ちを伝えるなど支えあう関係を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が日々のケアの中で一人ひとりの思いや意向について関心を払い、困難な方も生活歴や家族からの聞き取りなどで把握するように努めている。本人の視点で対応するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時に担当ケアマネージャーからの情報収集や、本人・家族から日頃のかかわりの中で思いや意向を聞き、職員の気づきなどミーティングで話し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	更新に合わせて期間を設定し定期的に見直しを行っている。状態の変化や本人や家族からの要望があった場合は随時見直しを行っている。		

グループホームたからべ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして定期受診の送迎や通院介助を支援している。自宅訪問など外出支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医に受診できるよう支援している。病状によっては往診も受けられる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制により重度化や終末期のあり方について入居時に方針を説明している。事例はないが、終末期のあり方については状況を見ながら、本人や家族等・主治医・職員と話し合い方針を共有していくことにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念を念頭に毎日のケアに取り組んでおり、感謝の言葉やねぎらいの言葉をかけ、入居者一人ひとりの誇りを大切に接している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての一日の流れは決まっているが、起床時間や食事時間など利用者に合わせて支援している。		

グループホームたからべ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年間の行事食を計画し四季を感じてもらえるよう工夫している。買い物と一緒にいき、調理の下ごしらえなどできることは手伝ってもらっている。朝食・夕食は、会話をしながら一緒に食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日を決めてはいるが、入浴は毎日実施しており、希望があればいつでも入浴できる。介助しながらのコミュニケーションは入浴の楽しみになっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	雑巾縫いや洗濯干し・洗濯物たたみ・調理の手伝い・居室の掃除など出来る事はしてもらって感謝の言葉を伝えている。毎日の体操・新聞記事を読んだら話題作り・童謡など歌ったりして活力を引き出すよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や病院受診時にドライブを兼ねて外出している。季節の花見や地域の古民家で家族と過ごしたり外出の機会を作っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者・職員は日中鍵をかけることの弊害を認識しており、県道に面しているため安全を考慮し、センサーを利用しながら見守りしている。玄関にベンチを置いて外を見れるようにしたり、一緒に散歩に寄り添うなど、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練を計画し、近隣住民にも緊急時の協力をお願いしているが、訓練を実施していない。	○	消防署の協力を経て、地域住民の協力を得られるよう働きかけ、避難訓練・避難経路の確認・消火器の使い方など定期的に訓練することが求められる。

グループホームたからべ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節の食材を利用し、職員で話し合い献立を作成している。年2回くらい献立について協力病院の栄養士にアドバイスをもらい、高齢者に合った食生活を支援している。水分摂取量や食事は毎回チェックし記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	堀コタツのある和室・食堂・台所が続いており、調理をしながら利用者を見守ることが出来、生活感があり、家庭的な雰囲気がある。トイレや洗面所も車椅子でも利用できるよう配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しタンスやテレビ・椅子など使い慣れた家具を持ち込み、又、家族の写真や若い頃の手作り作品を飾り、利用者が居心地よく暮らせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。